

# 高温耐性に優れた水稻品種「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培方法

農業総合センター農業研究所

## 【研究の概要】

水稻栽培では、イネ縞葉枯病による減収や、夏季の高温によって米粒が白く濁るなどの玄米外観品質の低下が問題となっています。農研機構\*が育成した水稻品種「にじのきらめき」は、イネ縞葉枯病抵抗性を持ち、高温耐性に優れた品種です。また、収穫量が多く、玄米外観品質も良く、粒が大きいという特徴があります。このため、本県における作付面積は今後も拡大が見込まれることから、「にじのきらめき」の収量・品質を安定的に確保するための栽培方法を明らかにしました。 ※国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

## 【研究内容】

「にじのきらめき」の収量・品質について、収穫量 660kg/10a、玄米粗タンパク含量 6.5%以下、千粒重 23.5g、検査等級 1 等を目標として、本品種に適する移植時期、基肥窒素量を調査しました。

## 【研究成果】

1. 移植時期について、4月下旬及び5月中旬は、6月上旬よりも収穫量が1～2割多くなります(図1)。また、5月中旬移植は検査等級が概ね1等であり、他の時期と比較して千粒重は重く、米粒が大きくなります。一方、4月下旬では検査等級が低下する傾向があり、全移植時期の中で最も米粒が小さくなりました。これらのことから、5月中旬の移植が本品種に適しています。
2. 収穫量が最大となる基肥窒素量は10kg/10aです(図2)。  
この施肥量は、「コシヒカリ」の慣行施肥量に対して1.6倍に増やした水準です。この施肥量における玄米粗タンパク含量(味の良い米とするには目標値以下にすることが求められます)は6.4%であり、目標値を達成できると試算されます(図2)。基肥窒素量3～15kg/10aの範囲では、倒伏はほぼ見られません。
3. 「コシヒカリ」と飼料用米を各10ha作付けする20ha規模の水稻経営体において、「にじのきらめき」を導入する場合、その面積が3ha以上で経営体の所得が10%以上向上すると試算されます(表1)。

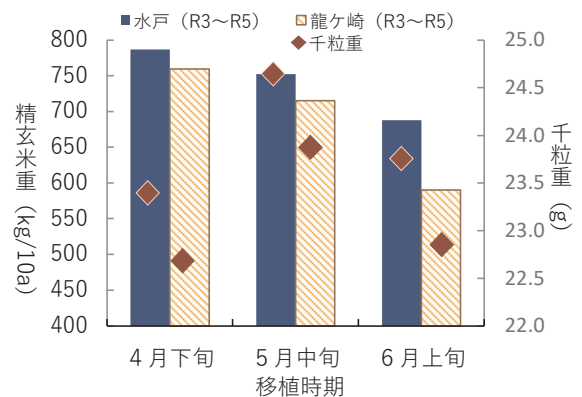


図1 移植時期の違いが「にじのきらめき」の収量に及ぼす影響 ※坪50株、基肥窒素9+追肥窒素3kg/10a、出穂前25日に追肥

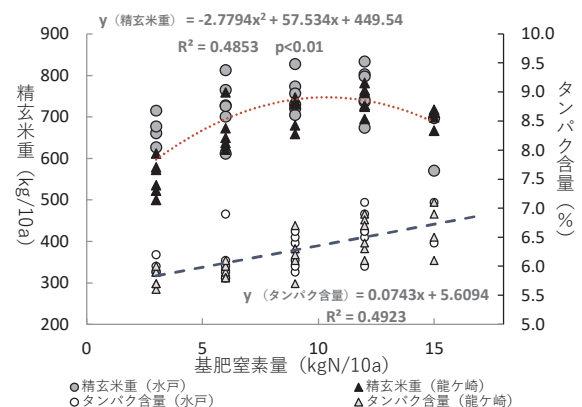


図2 基肥窒素量の違いが「にじのきらめき」の収量と玄米粗タンパク含量に及ぼす影響 ※R3~R5、坪50株、基肥窒素9+追肥窒素3kg/10a、出穂前25日に追肥

表1 20ha規模の水稻経営体における「にじのきらめき」の導入効果

用途	品種	導入前			導入後		
		面積 (ha)	収量 (kg/10a)	所得 (千円)	面積 (ha)	収量 (kg/10a)	所得 (千円)
主食用	コシヒカリ	10	510	3,022	7	510	2,116
主食用	にじのきらめき	0	710	0	3	710	1,641
飼料用	夢あおば	10	700	3,816	10	700	3,816
	合計	20	-	6,839	20	-	7,573

## 【将来の展望】

本品種の高品質安定多収栽培により、夏季の高温に対応した水稻栽培による経営の安定化が期待できます。